

2013.8

No.6 7

明行寺通信

〒380-0833
長野市権堂町 2382
TEL 026-233-1524
FAX 026-237-6072
myogyoji@office.so-net.ne.jp

掲示板の言葉

つがなく今朝も目覚めぬ
生くるとは
日々に生まるることと
知りたり

青柳田鶴子 4月

なかなか親の思うよう
にいかないもんじや
じやがのう、こりや
世の親ちうもんの欲じや
欲張ったら切りがない
小津安二郎監督脚本

小津安二郎 監督映画
『東京物語』
5月

人生の長期予報は
当たらないのです
お天気博士 倉嶋 厚
『朝日新聞』2004年9月11日
6月



写真 大地 郷愁を感じる場所は、十が見える場所でもあります。 鍋屋田小グラウンド

大地に生きる

前もつてご連絡いただければ、これ以外の時間のお参りにも応じます。それ以外の日も夏は、朝6時半から夕方5時半まで。（ぐり戸・駐車場扉は夜7時頃まで）

お盆 8月13日～16日は
朝6時から夜9時まで

開門します

大空の星を仰いで高く仰いで歩け
組曲『土の歌』の第二樂章「祖國の土」はテンポの速い行進曲
です。それが、この後に急に曲調が変わり、「しかし溝にははまるまい」と、ここだけは、つぶやくように歌われます。
作詞者の大木惇夫氏（1895～1977年）は、代表作に「国境の町」などがありますが、戦時に宣伝班に徴用された経験があり、それに基づく詩を多く作ったことなどから戦後しばらくは不遇であつたと言われています。親鸞聖人の教えを讃える詩も多く残した大木氏は、お盆によせる思いを次のようにならべて著しています。

「夕空の星を見るとも『死の灰』の怖れみちたり 地を指せば
もろものの殃（まがいわざわい）日を継ぎて避くるよしなし 天変のそ
れさへあるに人災の何ぞこちたき（ほなはじい）：」（蓋蘭盆の歌）
故郷が広島市である大木氏の願いに思いを馳せながらこの詩を読めば、『土の歌』に託された祖國の歩むべく姿を考えさせられます。大空の星を仰いでとは、自分達だけではなく、世界の誰にとも確かな目印を目指しての歩みということでしょう。

ても祖國の人々にとつても同じです。また足もとに眼を向ければ、それはどの国の人々にとつても同じです。自分たちの立場が問われます。内外を問わず、誰か標的を見つけて、批判を浴びせる風潮がありますが、批判している自分は大丈夫といふ保証はありません。妬ましさに起因するバッシングが、やがては自分を不幸にするという溝にははまりたくないのです。人間のみならず生きとし生けるものを分け隔てなく育む大地を讃えるこの組曲の最終樂章が、「母なる大地のふところにわれら人の子の喜びはある」で始まり、「こんにち、多くの中学・高校の合唱祭や卒業式で歌われている「大地讃頌」です。

おしらせ

護持金ご納入のお願い

総会で皆様のご承認をいただきました今年度の護持金につきましては、すでに多くの皆様から御進納いただいております。ありがとうございます。

ありがとうございます。

まだお納めでない方はお送りした振込用紙または、ご持参にてお納め願います。お盆にお参りの際にお持ちいただいても結構です。経済状況の厳しい折、大儀と存じますが、どうかよろしくお願ひいたします。

帰敬式のお申し込みはお早めに

受式予定でお申し込みをお忘れの方は、早急にご連絡ください。八月以降はお電話でお願いします。

信毎に小説「親鸞一完結篇」連載開始

帰敬式：九月二三日（月）一〇時三〇分、一三時
事前研修：八月三一日（土）一〇時一二時

信濃毎日新聞をはじめ、全国約四十紙で七月一日から連載しています。前回の激動篇では、京都から越後に流罪となつた親鸞聖人が、関東に赴き、約二十年を過ごし、京都に旅立つまでが描かれました。今回の完結篇では、京都での晩年が舞台です。

親鸞聖人が京都に帰られたのは、六十歳を過ぎた頃と推測され、帰京後は著作活動に励まれました。遠く関東では鎌倉幕府による専修念佛の身辺は安穏ではありませんでした。この機会に、聖人の生涯や教えを学びはじめています。いかがでしょうか。ご質問などお気軽にお待ちしております。

イラスト佛法 36 菩提を勤める①

「いのち」であることを忘れ、

「終活」…人生の終わりの

準備活動

ということが多いわれ、

そういう記事を見かける

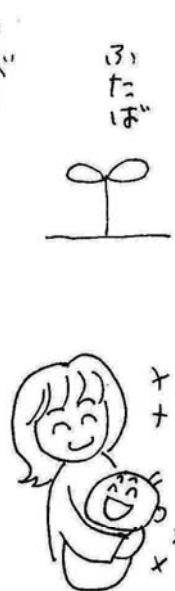
ことが夕くなりました。

仏教では人の死をどうように
とうえているのぞしようか？

その前にまず誕生とはーー、

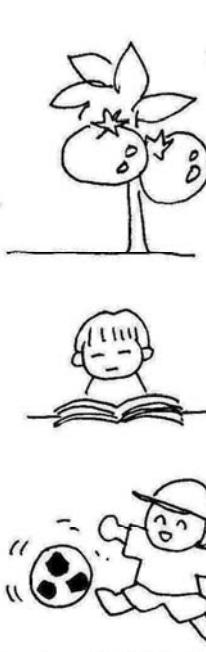
「いのち」として生まれてくること。

ひたば

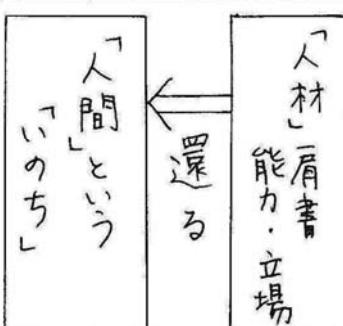


やがマ
成長とともに身に付けるものが
増えきます。

増えます。



それは必要で大切なことです。
いつの間にか：



亡くなつて
いのちに
ともいえます

